

表紙写真の説明

アラビカ・コーヒーノキ (*Coffea arabica*: アカネ科) の起源地と考えられているエチオピアは、アフリカ大陸有数のコーヒー生産国であり、コーヒー消費国でもある。エチオピアの広い範囲で、訪問客をコーヒーでもてなす習慣があるためか、エチオピアは自国で生産したコーヒーの半分以上を国内で消費している。訪問客があると、その家の妻や娘は生のコーヒー豆を煎りはじめ、しばらくすると、家中にコーヒーの香りが漂う。農村ではコーヒーに砂糖を入れて飲むことは少なく、コーヒーに塩やバターを入れて嗜む。写真はアラビカ・コーヒーノキの起源地の一角、オロミア州西部に位置するゲラ郡(ワレダ)で撮影したものである。私が調査で世話になっている家を訪ねると、その家の妻はコーヒー豆を煎り始めた。すると、彼女はコーヒーに入れる塩がないことに気がつき、コーヒー豆を焙烙の上においたまま、近くのキオスクに出かけてしまった。その家の幼い息子は、コーヒー豆が焦げるのを心配したのか、コーヒー豆を煎りはじめた。コーヒーの起源地に古くから伝わる味と香りは、このように伝えられてきたのだろうか。コーヒーの起源地で飲むコーヒーには起源地に古くから伝えられている味が今も生きているように感じられる。

伊藤義将 (京都大学)

編集後記

今号より編集代表をつとめる藤本です。前編集代表の増田さんには編集委員にとどまって助言いただくとともに、伊藤さん、村橋さんに新たに編集委員に加わってもらいました。

本ニュースレターはこれまで紙版がベースで、記事の一部が学会ホームページ上に公開されるかたちでしたが、今号から電子版のみになりました。それに伴う内容・形式の変更は編集部に一任されましたが、こちらもノウハウがないため、まずは従来のスタイルを引き継ぎ、電子版の利点を生かすよう徐々に改良していくこととしました。

電子版の利点として、以下の諸点があるかと思います。1)印刷代がかからないため、ページ数の制限が厳しくなれないこと、2)写真をカラーのまま豊富に掲載できること、3)レイアウトもカラーを多用できること、4)誤植の訂正や説明の追加など内容の修正・更新が随時可能であること、5)読者からの反響や質問・コメント、それに対する筆者の応答などを適宜盛りこみ双方向性を高めることができること、6)これまで原稿が全部そろってまで刊行できなかったのが(そのため刊行がしばしば遅れました)、原稿がすべてそろっていても、予定時期までに編集できた原稿で初版を発行し、その後集まった原稿を追加していくことで、定期刊行が容易になること(もちろん初版で原稿が全部そろっているのが望ましいことはいまでもありません)、7)電子媒体であるだけでなく、オンラインでもあることを積極的に活用し、外部へリンクを張り動画や音楽ともつなげるなど、従来の雑誌の枠組みをこえた実験的とりくみが可能であること、など。今号はまだこれらの利点のほんの一部を活用できたにすぎません。

論文掲載を主とした学会誌にも電子ジャーナルはもちろんありますが、とりわけニュースレターでは形式上の制約が少ないため、試行錯誤しながら今後どのようにも発展させていくことができるように思います。皆様からの積極的な提案や参加をお願い申し上げます。

JANES ニュースレター No.21

2014年5月15日 初版発行

2014年6月1日 改訂版発行

編集・発行

日本ナイル・エチオピア学会

編集委員

藤本 武(代表) 伊藤義将 増田 研 村橋 勲

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. 075-415-3661 Fax. 075-415-3662

E-mail:janes2@nacos.com